

第1号議案

平成29年度 事業報告 及び 収支決算

平成29年4月1日より平成30年3月31日まで

【 事業報告 】

世界経済は総じて堅調さを維持しているものの、朝鮮半島や中東で緊張が引き続く中で、ロシアと中国が強権的な統治体制の長期化に向かい、地政学的な野心も見せる一方で、世界の守護神であった米国は、自国第一主義を前面に打ち出し、強硬な輸入制限措置を講じるなど、政治・経済両面に亘って不安・不透明要因が広がっている。

こうした中でも、機動隊員をはじめとした警察活動は、国民の安心・安全の確保に向けて弛みなく続いている。平成29年度は、前年度の伊勢志摩サミットのような特別大規模警備は無かったものの、トランプ米大統領の来日や九州北部豪雨など様々な警備活動が続き、そのいずれにおいても完全警備を果たされた。昼夜を問わず治安維持に懸命の取り組みを続けている全国の機動隊員の皆さんに、改めて敬意と感謝を表したい。

創設40周年記念事業として平成26年度より開始した永年功労表彰については、平成29年度も会員資格継続30年以上の会員の方々を表彰した。

I. 活動状況

1. 弔意・見舞活動

平成29年10月19日に執り行われた「全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭」に、小山相談役などが参加し、今回新たに合祀された殉職警察職員7柱、警察協力殉難者6柱を加えて、その御霊に弔意を表した。(合祀者総数：6,216柱)

2. 大規模警備支援

①九州北部豪雨

7月5日から6日にかけて福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨に対する警備支援として、栄養ビタミンドリンクを福岡県警察に500本、大分県警察に300本寄贈した。

②トランプ米大統領来日

12月5日から7日にかけてトランプ米大統領が埼玉・東京を訪問したが、これに対して、警視庁に栄養ビタミンゼリー4,200個、埼玉県警察に栄養ビタミンドリンク1,350本を寄贈した。

③広島及び長崎の平和祈念式典その他

例年通り、8月6日に開催された広島平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）及び8月9日に開催された長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式の特別警備を支援すべく、広島県警察及び長崎県警察にそれぞれ栄養ドリンク 1,000本を寄贈した。またその他地域の特別警備に対してもタイムリーな警備支援を実施した。

3. 文化体育活動

①全国優秀機動隊員の海外研修支援

警察庁警備局長より全国優秀機動隊員として表彰された各都道府県の優秀機動隊員 90名を対象とした海外研修を支援した。研修先は例年同様マレーシアとなり、平成30年2月19日から3泊4日で実施された。

②警視庁機動隊観閲式

5月23日、明治神宮外苑絵画館前で挙行政され、沖田警視総監が観閲を行う中、約1,900名の機動隊員、警備犬8頭、車両86台などが行進した。当会からは、鈴木副理事長ほか6名が参列し、熱心に隊員を激励した。

③本部におけるその他の主な激励支援

平成29年5月12日	警視庁機動隊新隊員合同訓練（警備部長査閲）
8月5日	全国警察空手道選手権大会（愛知県 日本ガイシホール）
9月3日	東京都・墨田区合同総合防災訓練（多摩川児童公園等）
9月4日	警視庁第9機動隊アメリカンフットボール（Xリーグ）
11月17日	全国警察逮捕術大会
平成30年1月12日	警視庁年頭部隊出動訓練
1月31日	警視庁警備部武道始式

④支部における激励支援

支部においても、慰霊式・観閲式・緊急援助総合訓練・柔剣道大会・機動隊祭り等々、機動隊をはじめとする警察関連行事への参加が着実に増加して来ている。

4. 会員と機動隊員との交流激励会

平成29年度には、台風22号の影響で、北陸支部の総会・激励会開催が中止となりその後年明けに再設定となったものの、全国9カ所の本部・支部の総てで交流激励会が開催され、多数の機動隊員と警察幹部にご出席頂いた。各地での交流激励会においては、警備活動や厳しい訓練に明け暮れている機動隊員を支部会員が激励すると共に、管区警察局長や道府県警本部長をはじめとする警察幹部の方々とも懇親を深めることが出来た。また支部激励会において、当該支部以外の役員・会員の参加が一段と増加し、支部相互間の情報交換が活発化している。

★各支部の総会・激励会の開催

平成 29 年	5 月 10 日	東北支部総会	(仙台勝山館)
	5 月 16 日	北海道支部総会	(札幌パークホテル)
	5 月 31 日	九州支部総会	(博多サンヒルズホテル)
	10 月 3 日	中国支部総会	(ANAクラウンプラザホテル広島)
	10 月 30 日	北陸支部総会	— 台風 22 号警備の為中止
平成 30 年	1 月 29 日	千葉支部総会	(ヴェルシオーネ若潮)
	2 月 1 日	北陸支部総会	(新潟グランドホテル)
	2 月 8 日	大阪支部総会	(住友ビルレストラン)
	3 月 5 日	名古屋支部総会	(メルパルク名古屋)

5. 朝食講演会の実施

例年通り朝食講演会をホテルグランドアーク半蔵門で次表の通り合計 10 回開催した。出席総数は 946 名と、平成 27 年度の 929 名を上回って過去最高となった。また講演録は、機関紙「はげまし」に掲載し、広く会員や機動隊員の方々に知見に役立てた。

★朝食講演会の開催

4月	宿利 正史	一般社団法人国際高速鉄道協会 理事長	「新幹線」の海外展開を目指して
5月	嶋津 昭	公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 事務総長	ラグビーワールドカップ 2019 への期待
7月	中井 徳太郎	環境省 総合環境政策統括官	「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト — 環境・生命文化社会の実現に向けて —
9月	増田 尚宏	東京電力ホールディングス株式会社 常務執行役	福島第一原子力発電所における廃炉・汚染水対策の現状と今後の課題
10月	保坂 俊司	中央大学大学院 教授、 総合政策学部 教授	日本社会の危機管理と戒名の意義
11月	日高 義継	公益財団法人馬事文化財団 馬の博物館学芸部 上席学芸員	競馬の始まりから現在まで
12月	伊豆見 元	東京国際大学国際戦略研究所 教授	最近の北朝鮮情勢について
1月	高橋 秀行	みずほ総合研究所(株) 社長	内外経済見通し ～世界経済は拡大基調、日本の「真の夜明け」は訪れるか～
2月	江川 雅子	一橋大学大学院商学研究科 教授	ダイバーシティからイノベーションが生まれる
3月	合原 一幸	東京大学 教授 最先端数理モデル連携研究センター長	社会を支える数学

6. 普及・啓蒙活動

①機関紙「はげまし」の発行

全国の機動隊員の警備状況や訓練状況、本部・支部の総会・交流激励会の状況、朝食講演会の講演録を中心に、年 11 回発行した。

毎回 4,700 部を、全会員と全国の機動隊員等警備部門に送付し、好評を得ている。

②ホームページの更新・充実、カレンダーの発行

ホームページについては、随時掲載内容を更新し、最新情報をタイムリーに掲載した。また現在、過去の総ての機関紙の閲覧が可能となっているので、機動隊や当会の歴史などを照会の際にもご活用頂きたい。

カレンダーについては、1,300部を作成し、希望する会員及び全国警察の警備関係部に配布した。

II. 会員の異動状況

個人会員は、平成28年度上期末に初めて1,000名の大台を割込み、更に平成28年度末には943名にまで落ち込んで、会員総数でも1,274会員と1,300会員を割込む事態となった。こうした深刻な状況を受け、平成29年3月開催の第405回理事会において平成29年度を個人会員拡大強化年度と位置付けることとし、以降、役員・会員の皆さんの熱意ある活動によって、個人会員は大幅に増加して、上期末では1,029名と大台を回復すると共に、法人会員の増加もあり、会員総数でも1,365会員と大幅な増加をみて、1年前の水準を上回る事となった。

しかしながら、会員の皆さんの真摯な取組みの一方で、退職・退任、高齢、死亡を事由とする退会が引き続いているのも事実であり、下期には減少に転じて、本年度末には、上期末を若干下回って個人会員で1,021名、会員総数で1,355会員に止まった。ご承知の通り、当会は平成26年度で発足40周年を迎えたが、この長い歴史の中で、個人会員の着実な伝承、若返り化が遅れたものと痛感し強く反省しているところである。言うまでもなく、当会諸活動の一層の充実と財政基盤の安定には、経常収入の過半となる会費収入の維持・増大が不可欠であり、新規会員獲得は“永遠の課題”として、会員各位におかれても引き続き取り組みを強めて頂きたい。

★会員の異動状況（平成29年3月31日より平成30年3月31日）

会員区分	平成29年3月31日	加入	退会	差引増減	平成30年3月31日
法人	225	7	3	4	229
特別個人	106	3	4	-1	105
一般個人	943	116	38	78	1,021
合計	1,274	126	45	81	1,355

Ⅲ. 特別寄附の募集について決議

平成 31 年度には、天皇陛下の御退位と皇太子殿下の御即位、G20 大阪サミット、ラグビーワールドカップ、更に翌 32 年度には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、機動隊員をはじめとする大量の警察官が動員されることから、当会としても、所謂「特別大規模警備支援」として精一杯の激励・支援を果たしていきたい。

こうした特別大規模支援では、これまで 1 件当たり 500 万円程度を支出してきたが、当会財政の現状としては、平常時の運営で漸く収支が均衡しているのが実情であり、このままでは大幅な赤字転落・基金取り崩しが不可避である。

この為平成 30 年 3 月の第 409 回理事会において、これまでの冬季オリンピックや東日本大震災時と同様に、先に述べた一連の行事を一括して特別寄附を募集することを決議した（今回の寄付を略称で「2019/20 特別寄附」とする）。

具体的には、警備支援品について安価購入を更に徹底し、購入価格を一層低減していくことを前提に、まずは 1,000 万円を寄付総額の目標とする。寄附のご要請は、平成 30 年度の事業活動として、定時総会後に進めていくこととする。

なお今回の特別寄附に対しては、理事会社以外の会社や個人も含めて、既に平成 29 年度末までにも 190 万円余りの寄附が寄せられている。

【 収支決算 】

(決算額は総て切捨て表示)

平成 29 年度決算は、経常収益 56,910 千円に対して、経常費用 53,289 千円と、差引きの当期経常増減額（当期一般正味財産増減額）は、3,621 千円となり、13 年振りに黒字化を果たした平成 27 年度以来、2 年振りの黒字回復となった。但し、今回の収益には「19/20 特別寄附」に伴う特別大規模支援寄付金の 1,913 千円も含まれていることから、実質的な黒字は 1,708 千円となっている。

平成 28 年度決算と比較すると、次の通りである。（8 頁「正味財産増減計算書」参照）

収入面（経常収益）では、新規会員拡大活動の成果により、受取年会費が 1,130 千円の増加となり、賛助広告料などその他の収入も順調に増加した中で、前述の特別大規模支援寄付金を加えて、3,868 千円の増加となった。

支出面（経常費用）では、前年度の伊勢志摩サミットと関係関係会合に伴う特別大規模警備支援 3,395 千円の減に加え、引き続き事務管理費などの縮減に努め、4,159 千円の減少となった。

この結果、経常収益から、経常費用を差引いた当期経常増減額は、3,621 千円の黒字を確保することが出来た。

一般味財産は、期首の 44,370 千円から、期末 47,992 千円と 3,621 千円の増加となった。

なお今回の特別寄附については、貸借対照表においては、特定資産の「特別大規模支援積立資産」として計上した。

また、定款第 37 条に基づき、第 45 回定時総会終了後直ちに、平成 29 年度決算の貸借対照表の骨子を官報に公告する。

正味財産増減計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	36,165,000	35,035,000	1,130,000
新規会員受取会費	1,655,000	620,000	1,035,000
継続会員受取会費	34,510,000	34,415,000	95,000
講演会料	3,642,000	3,314,000	328,000
講演会料	3,642,000	3,314,000	328,000
事業収益	14,887,500	14,384,500	503,000
激励会参加料	9,367,500	9,252,500	115,000
賛助広告料	5,520,000	5,132,000	388,000
受取寄付金	1,913,000	0	1,913,000
特別大規模支援寄付金	1,913,000		1,913,000
雑収益	303,345	308,901	△ 5,556
受取利息	3,943	4,101	△ 158
雑収益	299,402	304,800	△ 5,398
経常収益計	56,910,845	53,042,401	3,868,444
(2) 経常費用			
弔慰見舞金		2,473	△ 2,473
大規模警備支援費	1,000,930	1,605,320	△ 604,390
特別大規模警備支援費		3,395,520	△ 3,395,520
文化体育活動援助費	8,140,730	8,136,058	4,672
交流激励会活動費	18,149,345	18,503,379	△ 354,034
機関紙発行費	5,937,146	5,979,907	△ 42,761
カレンダー発行費	1,133,900	1,154,710	△ 20,810
会議費	5,490,035	5,615,757	△ 125,722
給与手当	6,952,304	7,006,112	△ 53,808
福利厚生費	1,113,512	1,162,997	△ 49,485
旅費交通費	2,010,140	1,678,393	331,747
通信運搬費	705,200	738,093	△ 32,893
消耗品費	425,087	535,889	△ 110,802
新聞図書費	214,869	209,063	5,806
印刷製本費	418,556	107,425	311,131
賃借料	911,088	911,088	0
諸謝金	430,120	393,640	36,480
租税公課	70,000	70,000	0
支払手数料	157,928	203,224	△ 45,296
雑費	28,375	39,588	△ 11,213
経常費用計	53,289,265	57,448,636	△ 4,159,371
当期経常増減額	3,621,580	△ 4,406,235	8,027,815
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,621,580	△ 4,406,235	8,027,815
一般正味財産期首残高	44,370,726	48,776,961	△ 4,406,235
一般正味財産期末残高	47,992,306	44,370,726	3,621,580
II 正味財産期末残高	47,992,306	44,370,726	3,621,580

貸借対照表

平成30年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	24,291,800	22,587,374	1,704,426
未収入金	776,000	745,000	31,000
流動資産合計	25,067,800	23,332,374	1,735,426
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
はげまし基金積立資産	45,000,000	45,000,000	0
特別大規模支援積立資産	1,913,000		1,913,000
特定資産合計	46,913,000	45,000,000	1,913,000
(2) その他固定資産			
電話加入権	59,042	59,042	0
その他固定資産合計	59,042	59,042	0
固定資産合計	46,972,042	45,059,042	1,913,000
資産合計	72,039,842	68,391,416	3,648,426
II 負債の部			
流動負債			
前受金	23,725,000	23,785,000	△ 60,000
預り金	122,536	35,690	86,846
賞与引当金	200,000	200,000	0
流動負債合計	24,047,536	24,020,690	26,846
負債合計	24,047,536	24,020,690	26,846
III 正味財産の部			
一般正味財産	47,992,306	44,370,726	3,621,580
(うち特定資産への充当額)	(46,913,000)	(45,000,000)	(1,913,000)
正味財産合計	47,992,306	44,370,726	3,621,580
負債及び正味財産合計	72,039,842	68,391,416	3,648,426

財務諸表に対する注記

1. 継続企業の前提に関する注記

継続事業の前提に対する重要な疑義を生じさせるような事象または状況は存在していない。

2. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

賞与引当金…職員の賞与給付に備えるため、支給見込額のうち、当期に帰属する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

税込方式で行っている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
はげまし基金積立資産	45,000,000			45,000,000
特別大規模支援積立資産		1,913,000		1,913,000
合 計	45,000,000	1,913,000	0	46,913,000

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
はげまし基金積立資産	45,000,000	-	(45,000,000)	-
特別大規模支援積立資産	1,913,000	-	(1,913,000)	-
合 計	46,913,000	-	(46,913,000)	-

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

財務諸表の注記に記載しているとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	200,000	200,000	200,000	0	200,000

財 産 目 録

平成30年3月31日現在

(単位：円)


貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金 預金	手元保管	運転資金として	846
		普通預金	運転資金として	
		三菱UFJ銀行蒲田駅前支店		19,150,006
		三井住友銀行六郷支店		207,041
		みずほ銀行蒲田支店		1,036,194
		三菱UFJ銀行札幌中央支店		127,343
		岩手銀行仙台営業部		589,840
		三井住友銀行新潟支店		7,569
		三菱UFJ銀行銀座通支店		105,207
		三菱UFJ銀行名古屋営業部		431,583
		三井住友銀行西野田支店		27,318
	広島銀行八丁堀支店		31,878	
西日本シティ銀行博多駅東支店		294,486		
	振替貯金			
	六郷土手郵便局		2,282,489	
	未収入金	会員に対するもの	講演会料未収分	196,000
		会員に対するもの	賛助広告料未収分	580,000
流動資産合計				25,067,800
(固定資産)	特定資産	はげまし基金	定期預金	機動隊員等激励事業に
		積立資産	三菱UFJ銀行蒲田駅前支店	使用している
		みずほ銀行蒲田支店		20,000,000
		特別大規模支援	普通預金	機動隊員等激励事業に
	積立資産	三菱UFJ銀行蒲田駅前支店	使用している	1,913,000
その他固定資産	電話加入権	事務局設置分		59,042
固定資産合計				46,972,042
資産合計				72,039,842
(流動負債)	前受金	会員受取会費		23,725,000
	預り金	職員に対するもの	源泉税等預り金	114,536
		会員に対するもの	講演会料預り金	8,000
	賞与引当金	役員・職員に対するもの	役員・職員に対する夏期賞与の支払に備えたもの	200,000
流動負債合計				24,047,536
負債合計				24,047,536
正味財産				47,992,306


監 査 報 告 書

平成30年5月17日

一般社団法人機動隊員等を励ます会

理事長 樋口 眞哉 殿

監事 岩井 榮三 

監事 坂東 稔 

私ども監事は、一般社団法人機動隊員等を励ます会の定款第22条（監事の職務及び権限）に基づき、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの平成29年度における業務及び会計についての監査を実施した。

その結果につき、定款第33条（事業報告及び決算）に基づき次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

私ども監事は、毎月常任理事が作成する「月次収支報告書」を閲覧・チェックし、毎月の法人の全ての収支と資産状況について監査してきた。

同月次収支報告書には、月次の正味財産増減計算書と貸借対照表ならびに全ての収支にかかわる個別伝票の原票と領収書、全預貯金口座通帳の入出金記録の写しと支払請求書類が添付されているため、毎月の業務執行状況及び全会計科目の内容について監査が網羅的に実施できた。

さらに、私ども監事は理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取する他、上記の月次収支報告書以外の業務関係書類の提出・閲覧や事業執行状況の報告など、必要と思われる監査手続きを適宜実施し、業務執行の妥当性を検討してきた。

また、今次決算に際しては、財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、附属明細書）及び財産目録について、検討を加えた。

2 監査の結果

(1) 法人の業務執行及び理事の職務遂行については、法令、法人の定款及び事業計画等に基づき、適正に運営されていると認める。

(2) 事業報告の内容は、法人の業務運営の状況を正しく示しているものと認める。

(3) 財務諸表等及び財産目録は、必要な事項を正しく示しているものと認める。

以 上